

2月17日（金）2階プレイルーム 9：00～9：40

- 1 単元名 美しいって何だろう
- 2 考える価値内容 美（世界・科学などに関わるもの）
- 3 単元について

「てつがく」科の対話の中で子どもたちは、いろいろな考えに触れて自分の引き出しを増やしてきた。また、仲間から質問されることで自分自身と向き合い、自分がそもそももっていた考えを表すちょうどいい言葉を見つけ出す経験をしてきた。

子どもたちは、週に2回書く絵だよりにふとした発見や「てつがく」科で考えたことを書いてくることがある。今回は、ある子どもの絵便りに書かれていた、晴れの日の太陽の光の美しさについての記述をきっかけに、テーマを「美しいって何だろう」と設定した。誰もが経験しているが、あらためて言葉にする機会はない「美しい」ということを「てつがく」科の時間を使って考えることで「美しいって何だろう」と考え続ける素地を耕したい。

「美しい」の感じ方は子どもによって異なる。分かり合い、話し合うためには、いくつかの手立てが必要である。自分が美しいと感じるものを実際に持ってきたり見える形で表したりして示しながら、ファミリーで質問し合う。そうすることで、何を美しいと思っているのか、なぜ美しいと感じるのか考えを明らかにし、言葉を引き出し合う。全員での話し合いは、「人それぞれ違うね。」で終わらないように、それぞれが感じる「美しい」に共通することを見つけ出させる。

「美しい」の共通点を考えて種類分けする中から、様々な問いがまた生まれてくる。「美しいが完璧でないもの（出てきた共通点にあてはまらないもの）はあるか。」「美しいと好きはセットか。」「美しいが嫌いなものはあるか。」「美しいと美しくないが両方あるものはあるか。」「美しいはそのものの中にあるのか、感じる人の中にあるのか。美しいは物の本質か、見ている人の価値なのか。」「美しいは共有できるか。他人が感じている美しいを否定することはできるのか。それはどうして?」「美しいは、時代や国によって変わるのか。」「日本にいる私たちだからこそ感じている美しさはあるのか。現在もそれはあるのか。他の時代や文化の人々ともそれは共有できるのか。」などを話し合う中から、「美しいとは何か」を考えていく。

4 学習指導計画（全5時間）

- 問いを立てる
- 美しいと感じるものを見せ合いながら、ファミリーで聞き合う
- 「美しい」の具体例を種類分けして名前を付ける
- 全員で話し合う（本時）
- 話し合いをふり返る

5 本時の学習について

- (1) 本時のねらい「美しいって何だろう」ということやそこから派生した問いについて、他者と考えを照らし合わせながら、自分の考えを深めたり広げたりする。
- (2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 前時をふり返り、問いを確認する。 美しいって何だろう	・子どもの言葉で想起する。
2. 全員で輪になって話し合う。	・子ども同士が聴き合い、話を関係づけられるようにする。 ・言葉の意味の明確化、考えの違いや一致の確認などを促す。
3. ふり返りをする。	・新しく言葉になった自分の考えや心に残った友達の考えなどをてつがく帳に記述させる。